

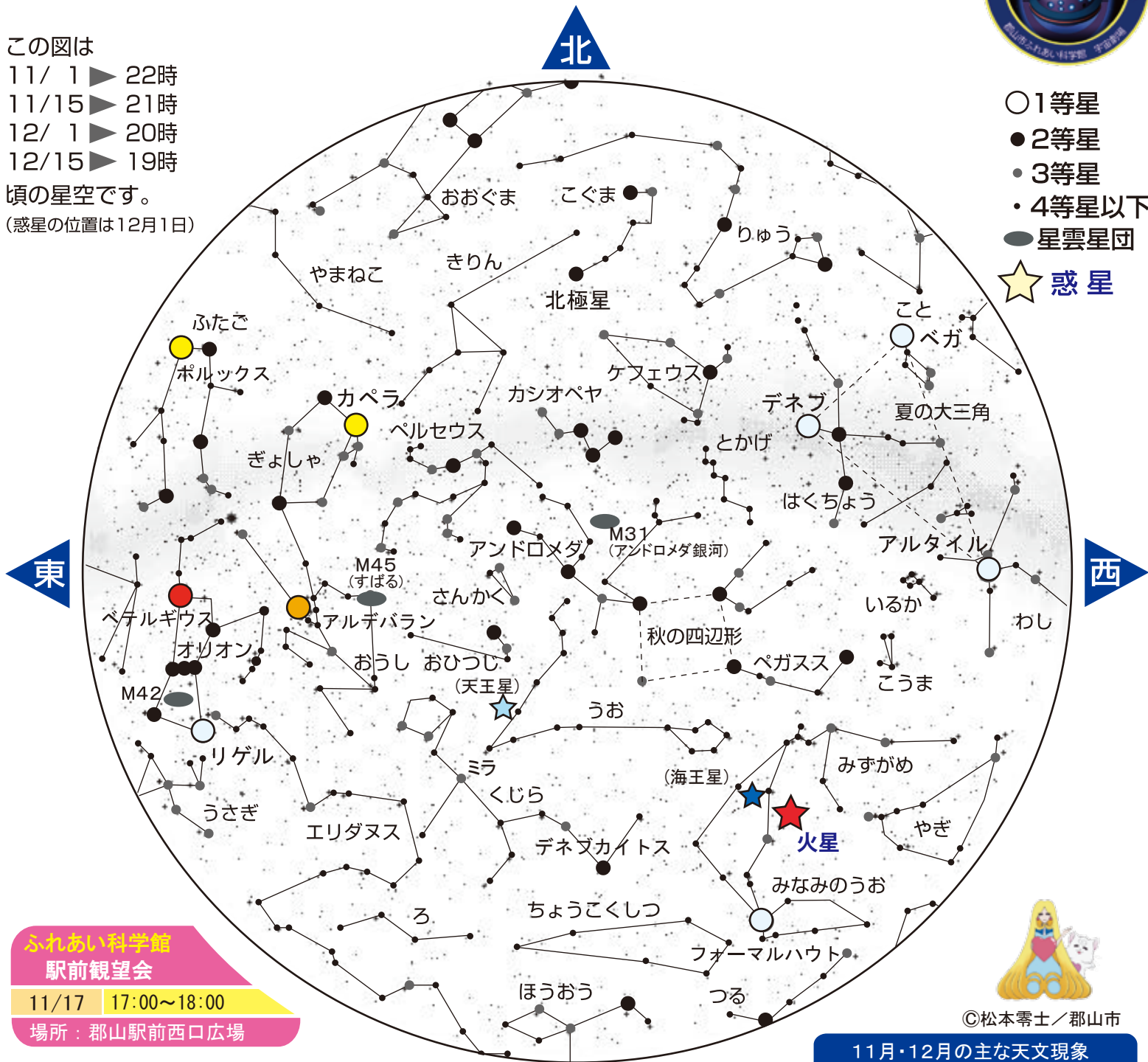
2018年

11月▶12月の星空



この図は
 11/ 1 ▶ 22時
 11/15 ▶ 21時
 12/ 1 ▶ 20時
 12/15 ▶ 19時
 頃の星空です。
 (惑星の位置は12月1日)

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下
- 星雲星団
- ★惑星



ふれあい科学館
 駅前観望会

11/17 17:00~18:00

場所：郡山駅前西口広場



©松本零士／郡山市

郡山の日の出・日の入	
11/ 1	6:02 16:42
11/15	6:17 16:29
12/ 1	6:33 16:21
12/15	6:45 16:22

月の満ち欠け	
新月	11/ 8, 12/ 7
上弦	11/15, 12/15
満月	11/23, 12/23
下弦	11/ 1, 30, 12/29

※上弦、下弦は半月です。
 ※天王星、海王星は肉眼では見えません。

11月・12月の主な天文現象	
11/18	しし座流星群が極大
12/12	くじら座のミラが極大
12/14	ふたご座流星群が極大
12/22	冬至

日没が早くなり、気温も下がって冬がやってきます。この時季は、南の空でまだ秋の星がよく見えます。秋の星の目印となるのは、南の空高くにあるペガサス座の「秋の四辺形」です。四角形の東側(左側)の星を結んだ線を南に伸ばすと、くじら座の「デネブカイトス」が見つかります。くじら座はギリシャ神話に登場する怪物の星座です。古代エチオピアの王女アンドロメダを食べようとしたが、ペガサスに乗った勇者ペルセウスに退治され、その後星座になりました。くじら座の他に、アンドロメダ座など物語の登場人物も秋の星座になっています。くじら座の胸の辺りには、初めて発見された変光星「ミラ」があります。「ミラ」は膨張と収縮を繰り返しており、およそ332日の周期で明るさが変化します。このようにして明るさが変化する星を脈動変光星と呼びます。「ミラ」は暗い時は10等級と肉眼では見えませんが、今年の12月には3等級ほどまで明るくなり、見頃となる予想です。今年はいくじら座の見やすい時季に「ミラ」も見つけやすくなっていますので、この機会にくじら座をたどってみてはいかがでしょうか。

この時季は流星群の活動も多く、星座を探している時に流れ星が見つかることがあります。11月-12月のプラネタリウム一般番組では流れ星や流れ星の見つけ方について紹介していますので、併せてお楽しみください。

